

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381292

研究課題名(和文)小1プロブレムを防止する幼児期からの移行支援プログラムの開発

研究課題名(英文)The development which is a shift support program to a 1st grader of elementary school from 5-year old children who prevents "a 1st grade of elementary school, problem"

研究代表者

三浦 光哉 (MIURA, KOYA)

山形大学・大学院教育実践研究科・教授

研究者番号：10344780

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、「小1プロブレム」の問題を改善するために、保育所・幼稚園から小学校への移行支援プログラムを開発することであった。その内容は、(1)接続カリキュラム(アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム)、(2)小1プロブレムを防ぐ保育活動(40題材)、(3)特別支援教育の研修講座、(4)個別の支援計画であった。この4つを開発し実施した結果、小学校1年生において不適応の状況が減少し、移行支援プログラムの有効性が明確化された。

研究成果の概要(英文)：This study was performed to develop connection curricula (approach curricula, start curricula) from 5-year-old children to 1st grade of elementary school. The contents met a(1) curriculum (approach curriculum and start curriculum), the nurture activity that a problem of(2) is stopped (40 subjects), a training lecture of(3) special support education and a support plan of(4) individuality. Inspection of these connection curricula in elementary schools clarified their effectiveness.

研究分野：特別支援教育

キーワード：小1プロブレム 移行支援 接続カリキュラム 保育所 幼稚園

1. 研究開始当初の背景

近年、小学校入学後の児童らが、授業中に立ち歩く、教師の話を中心して聞けない、友達との関係が上手にとれない、学習についていけない、登校渋りが見られるなど、「小1プロブレム」の問題が指摘されている(文部科学省, 2014)。東京都(2010)では、不適応状況の発生率が18.2%と報告されており、我が国の教育における最重要課題の一つとなっている。

このような社会状況に対して、発達障害児等の対応を中心とする特別支援教育推進体制が整備されつつあり、実際の対応はされているものの、年長から小学校にかけての移行支援プログラムである「接続カリキュラム(アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム)」といった教育課程の編成と指導技法に関わるカリキュラム開発と実践は見当たらない。そのため、「小1プロブレム」を防止する観点から、保育所・幼稚園から小学校へとスムーズに移行するための支援プログラムの開発が期待されている。

2. 研究の目的

本研究は、「小1プロブレム」の問題を改善するために、保育所・幼稚園において、小学校への移行支援プログラムを開発・適用することである。さらにこの移行プログラムを拡大し一般化を目指す。

3. 研究の方法

研究は3年計画とし、以下の具体的な取り組みを行う。

- (1)「小学校移行支援研究プロジェクト委員会」の組織
- (2)現行の保育活動の調査と新たな保育活動内容の作成と実施
- (3)「小学校移行支援プログラム」の開発
- (4)特別支援教育制度の考案と実施
- (5)特別支援児への個別の支援計画作成

- (6)「小学校移行支援プログラム」の他地域への導入

4. 研究成果

- (1) 小学校移行支援研究プロジェクト委員会と専門家チームの巡回支援

本研究を進めるにあたり、山形大学と、幼稚園・保育園、小学校との連携の下、教育、医療、福祉などの関係者20数名で構成する小学校移行支援研究プロジェクト委員会を組織した。構成メンバーは、学校園(校長・園長・特別支援教育コーディネーター)、医療(精神科医)、福祉(福祉担当・保健師)、教育行政(指導主事・教育相談員)、学識経験者(大学教授)など代表者約20名である。開催は年2~3回実施した。また、大学教授、指導主事、教育相談員、保健師などで構成した「専門家チーム」を配置し、地域内全ての保育所・幼稚園・こども園や小中学校に年2回程度定期的に巡回相談を行い、スクリーニング、担任への具体的な指導助言、支援計画作成の助言と評価、個別検査の実施などを行った。

- (2) 特別支援教育研修制度の設定

特別支援教育に関する研修講座を企画して実施した。研修時間は年30時間(初級)を設定し、希望者には、中級(30時間)や上級(30時間)も受講できるようにした。対象者は、教員・保健師・教育相談員などとした。講座内容は、「概論」「コンサルテーション」「理解と支援」「カウンセリング」「アセスメント」「支援計画」「健康・福祉」「コーディネーション」の8領域15科目設定した。

- (3) 特別支援児への個別の支援計画作成

不適応状態にあり個別検査等を実施した幼児は、「障害判断会議」を開催して障害の有無を決定した。そして、「障害あり」

と判断された場合には、特別支援児として、個別の支援計画を作成して、スムーズな移行支援ができるようにした。

(4) 保育園と小学校のカリキュラム編成

保育所・幼稚園と小学校の一日の生活の流れを比較してみると、保育所・幼稚園では、1つ1つの保育活動の時間は定まっていない。15分程度の短い活動もあれば、遊び(設定・自由)や午睡(お昼寝)のような2時間程度の活動もある。それに対して小学校は、全国一斉に登校・下校時間、あるいは1つの学習活動の時間が45分(1単位時間)と決まっている。そこで、年長アプローチカリキュラムを作成する場合には、1つの保育活動を30~45分程度に設定して、年長児が活動時間に集中して取り組めるようにした。

一方、教育(保育)内容と教育(保育)目標を比較してみると、保育所・幼稚園では遊びを通して園児の成長・発達を促し、豊かな人間形成の基礎を育てるのに対して、小学校では、教科書を使って学習し各「単元・題材」に示されている教育目標を達成していく。学習の理解度についてテストもする。そこで、年長アプローチカリキュラムを作成する場合には、保育5領域(健康・表現・言葉・環境・人間関係)のねらいや内容を変えることなく、遊びを通して小学校の教科学習等を意識した保育活動を新たに導入・展開することとした。

(5) 移行支援プログラムとしての接続カリキュラムの開発と実施

年長アプローチカリキュラム

接続カリキュラムである「年長アプローチカリキュラム」は、小学校の教育内容や教育方法に近づけていく役目がある。そこで、これまで1月~3月にかけて取り組んできた保育活動の内容(卒園式の練習など)

を見直しカリキュラムの改善をした。その際、保育5領域のねらいや内容を変えることを避けた。そのため、卒園時期に当たり、多少の卒園式練習や卒園製作活動の時間を削減することにし、小学校の教科学習等を意識した保育活動を新たに導入・展開することとした。

A 幼稚園では、年長の1月~3月の時期を「アプローチカリキュラム」と称してこれまでのカリキュラムを再編成した。その特徴として、アプローチカリキュラムの中に『小1プロブレムを防ぐ保育活動』の題材を取り入れた(表1)。遊びの活動を通して、教科学習(国語・算数・生活・音楽・図画工作・体育など)の基礎作り、ルールの理解、コミュニケーション、友だちとの関わりについて取り組んだ。活動時間は、小学校に合わせて45~60分間とした。

小1スタートカリキュラム

接続カリキュラムである「小1スタートカリキュラム」は、入学してきた園児をスムーズに小学校の生活に適応させる役目がある。そこで、入学時から3カ月間は、小学校の学習スタイルが保育所・幼稚園の保育スタイルと大きく異なることから、両者の時間割を比較しながら学習や活動時間をモジュール(15分~30分)にするなど集中して取り組めるようにカリキュラムを改善することにした。

表2には、B小学校における、「小1スタートカリキュラム」を示した。従来のカリキュラム(単元・題材・配当時間等)を見直し、卒園児が小学校に適応できる授業(基礎学習、学校生活やルール、仲間づくり)を導入し、テーマ学習を取り入れるなど再編成した。

(6) 移行支援プログラムの成果

移行支援プログラムとしての接続カリキュラム(年長アプローチカリキュラムと小

1 スタートカリキュラム)が幼児児童に有効であることについて、効果検証を試みた。小学校入学時において年長の時期にアプローチカリキュラムを適用された児童(適用児)と適用しなかった児童(一般児)について、特別支援教育専門家チームの巡回により不適用状況を調査した結果を示した。その結果、2つの小学校において、適用児は32人中1人(3%)が不適用状況、一般児は91人中15人(16%)が不適用状況であった。一般児は、適用児に比べ5倍強の不適用状況になることが明らかとなり、年長アプローチカリキュラムが効果的であったことが示唆された。

(6)研究のまとめと今後の課題

本研究では、小1プロブレムを防止するための移行支援プログラムを開発した。その内容は、専門家チームによるスクリーニングと巡回相談の実施、5歳年長と小学校1年の保育・教育カリキュラムの改善、「小1プロブレムを防ぐ保育活動」の導入、保育士・教員等への特別支援教育研修会の実施、発達障害児等への個別の支援計画の作成であった。これらの5つの内容は小1プロブレムを防止するために必要不可欠な要素であり、それを充実させ更にシステム化させていくことが今後も継続した支援に繋がると考える。

本研究では、移行支援プログラムを山形県内だけでなく、徳島県や岐阜県の保育所・幼稚園、小学校で実施することができた。さらに、プログラムの精度を向上させてだけでなく、他地域にも拡大させていきたい。

<引用文献>

東京都教育委員会、東京都内公立小学校における小1問題の調査、2010

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

三浦 光哉・大村一史・大江啓賢、「年長 - 小1」「小6 - 中1」の接続カリキュラムの開発と実践による幼児児童生徒のスムーズな移行支援、査読無、日本教育大学協会研究年報、第33集、2015、229-240

三浦 光哉、小1プロブレムを防ぐ保育活動プログラムの開発・適用と効果、宮城教育大学特別支援教育総合研究センター研究紀要、査読無、第10号、2014、pp.23-36

〔学会発表〕(計7件)

三浦 光哉、小1プロブレムを予防する保育活動の実践と検証、第53回日本特殊教育学会ポスター発表、東北大学、2015

三浦 光哉 他、保育所・幼稚園から小学校へのスムーズな移行と特別支援教育システム化、第24回日本LD学会自主シンポジウム、福岡国際会議場、2015

三浦 光哉、小1プロブレムを防ぐアプローチカリキュラムの実践と検証、第21回日本特別ニーズ教育学会自由研究発表、京都教育大学、2015

三浦 光哉 他、保・幼・小の連携と特別支援教育システムの構築、第52回日本特殊教育学会自主シンポジウム、高知大学、2014

三浦 光哉 他、「年長 - 小1」「小1 - 中1」の接続カリキュラムとスムーズな移行支援、第23回日本LD学会自主シンポジウム、大阪国際会議場、2014

三浦 光哉、地域における特別支援教育システムの構築とその波及効果、第20回日本特別ニーズ教育学会教育講演、茨城大学、2015

三浦 光哉 他、乳幼児期の早期支援システムと小中学校の特別支援教育システム、第51回日本特殊教育学会自主シンポジウム、明星大学、2013

〔図書〕(計3件)

七木田 敦・松井 剛太・三浦 光哉、保育出版社、つながる・つなげる障害児保育、2015、188

三浦 光哉・井上孝之、クリエイツかもがわ、小1プロブレムを防ぐ保育活動(理論編)、2013、95

三浦 光哉 他、クリエイツかもがわ、小1プロブレムを防ぐ保育活動(実践編)、2013、91

6. 研究組織

(1)研究代表者

三浦 光哉(MIURA, Kouya)

山形大学・大学院教育実践研究科・教授

研究者番号：10344780

様式 C - 19、F - 19、Z - 19 (共通)

表1 A幼稚園の「年長アプローチカリキュラム」の中に取り入れた保育活動の題材

題材名	保育園・幼稚園の領域	小学校の教科・領域	引き出す能力
自己紹介をしよう	人間関係(言葉・表現)	国語(生活)	話す、聞く、人との関わり、表現力
宅配更ごっこをしよう	人間関係(言葉・表現)	国語(生活)	話す、聞く、役割分担、平仮名の理解、書く
どんなお話だったかな?	言葉(表現)	国語(生活)	集中力、想像力、記憶力、話す
言葉を聞いて伝えよう	言葉(表現)	国語(生活)	記憶力、集中力、伝達力、話す
反対の言葉を考えてよう	言葉(表現)	国語(生活)	対語の理解、表現力、想像力
鉛筆で書いてみよう	環境(言葉)	国語(生活)	書く、筆玉、鉛筆の持ち方、運筆、微細運動
平仮名と自分の名前	環境(言葉)	国語(算数)	平仮名の理解、左右の区別、数字の理解
いろいろな言葉を作ろう	環境(言葉)	国語(生活)	平仮名の理解、物の知識、友だちとの協力
小学校カケタをしよう	環境(言葉・人間関係)	国語(生活)	平仮名の理解、集中力、判断力、数字の理解
数字を数えよう	環境(言葉)	算数(生活)	数具、数字の理解、左右の区別
丸、三角、四角はどれ?	環境(言葉・表現)	算数(生活)	形の区別、聞く、見る、想像力
大きい、小さいのはどっち?	環境(言葉・表現)	算数(生活)	大きさの比較、聞く、見る、想像力
高い、低いのはどっち?	環境(言葉・表現)	算数(生活)	高さの比較、聞く、見る、想像力
長い、短いのはどっち?	環境(言葉・表現)	算数(生活)	長さの比較、聞く、見る、想像力
速い、遅いのはどっち?	環境(言葉・表現)	算数(生活)	速さの比較、聞く、見る、想像力
重い、軽いのはどっち?	環境(言葉・表現)	算数(生活)	重さの比較、聞く、見る、想像力
観察して仲間分けしよう	環境(言葉・表現)	生活(国語)	観察力、想像力、物の知識、動植物の区別
3つのヒントで当てよう	環境(言葉・表現)	生活(国語)	抑圧力、想像力、表現力、物の知識
朝、昼、夜の区別をしよう	環境(言葉・表現)	生活(算数)	自然現象、時間、時刻、物の知識
箸で上手にまめるかな?	健康(人間関係)	給食(算数)	集中力、箸の持ち方、数字の理解、協働動作
①手遊びをしよう	人間関係(表現)	音楽(生活)	関わり、勝敗の理解、歌唱
②音階を色で覚えよう	表現(言葉)	音楽(図工)	音階の理解、色の区別、音感、歌唱
③楽器の名前を覚えよう	表現(言葉)	音楽(生活)	楽器の知識、記憶力、歌唱
④大きい音、小さい音	表現(言葉)	音楽(生活)	大小の区別、リズム感、歌唱、想像力
⑤どんなパンがあったかな?	表現(言葉)	音楽(生活)	記憶力、リズム感、歌唱
⑥丸から何ができるかな?	表現(言葉・環境)	算数(図工)	想像力、数具、数の概念、色の区別、歌唱
⑦友達の顔やいろいろな物を見て描こう	表現(人間関係)	図工(生活)	描写、空間認知、見る
⑧5日間同じ絵を描こう	表現(言葉)	図工(生活)	描写、空間認知、見る、比較
⑨順番を守って、皆で一つの絵を描こう	表現(人間関係・環境)	図工(生活)	ルールの理解、見る、集中力、抑圧力、着席運動
⑩人や色を制限しながら皆で一つの絵を描こう	表現(人間関係・環境)	図工(生活)	ルールの理解、見る、集中力、抑圧力
⑪どんな評定物ができるかな?	表現(人間関係・環境)	図工(算数)	空間配置、手と目の協働動作、横放
⑫形をまねて書こう	表現(環境)	図工(算数)	模写、空間認知、手と目の協働動作、書く
⑬何を描いたのかな?	表現(言葉・環境)	図工(生活)	色の区別、空間配置、左右の区別、想像力
⑭サミで切ってみよう	表現(環境)	図工(生活)	ハサミの使用、協働動作、微細運動、集中力
⑮作って遊ぼう	表現(人間関係・環境)	図工(生活)	速さの比較、聞く、見る、想像力、関わり
⑯いろいろな運動をしよう	健康(人間関係・環境)	体育(生活)	粗大運動、ルール理解、器械運動、平衡感覚
⑰マト当て名人はだれ?	健康(人間関係・環境)	体育(生活)	粗大運動、集中力、ルールの理解、認め合う
⑱昔からの遊びをしよう	健康(人間関係・環境)	体育(生活)	微細運動、粗大運動、空間認知、関わり
⑲ルールを守って遊ぼう	健康(言葉・人間関係)	体育(音楽)	ルールの理解、友だちへの応援・賞賛
⑳自分のことを知って遊ぼう	健康(言葉・人間関係)	体育(音楽)	ルールの理解、自己理解、譲り合い、機敏性

表2 B小学校の「小1スタートカリキュラム」

適応学習（学習）

A お話玉手箱（読み）	B しっかり書こう（書き）	C 1, 2のさんすう
教師や地域の方の読み聞かせ ・読書アニメーション 簡単な詩を暗唱する	文字を習い、言葉を覚える ・あいうえお ~ わをん	数える、数字で書く いくつといくつ 何番目 時計の見方（時刻）

適応学習（国語科）の事例 30分×29回

A お話玉手箱（読み）		B しっかり書こう（書き）
「おはなしききたいな、よみたいな」 読み聞かせ お絵かき ・気に入った場面や人物を描く		詩（リズム詩）の暗唱 ・時間内で暗唱できるもの
読み聞かせ クイズ ・読書アニメーション	~ ⑳	鉛筆の持ち方（いろいろな線） ・鉛筆の持ち方・書く姿勢 ひらがなの書き方 ・自分の名前を書いてみよう（1回） ・形のにている字（1回） ・絵に合う言葉を書く（1回） ・言葉集め 6月末までに46文字を学習する
読み聞かせ 主人公に質問 ・読書アニメーション		
読み聞かせ お絵かき ・気に入った場面や人物を描く		

適応学習（算数科）の事例 30分×16回

C 1, 2のさんすう	
ならべよう（5まで） ・数字をおはじきに置き換える ・数字の練習、数を聞いて書く	いくつといくつ（9） ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く
いくつといくつ（5まで） ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	いくつといくつ（10） ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く
4をさがそう or 3・2 ・身の回りから4で1組を探す ・紹介し合う	6をさがそう or 8・10 ・身の回りから6で1組を探す ・紹介し合う
ならべよう（10まで） ・数字をおはじきに置き換える 数の練習、数を聞いて書く	かぞえよう（タンプリンの音） ・聞いて当てる、数を書く
いくつといくつ（6） ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	どっちが大きいかな ・教師対子ども、子ども同士
いくつといくつ（7） ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	わたしは前から何番目 ・後ろ・右・左から 前からいくつと何番目
いくつといくつ（8） ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	ねるじかん・おきるじかん ・生活に結びついた時刻

適応学習（生活）15分×24回 「学校生活のルールを知り、安心・安定した生活を送ることができる」

小学校生活適応のための学習	
・学校に来たら…あいさつの仕方（15分）	・下足棚・雨具掛けの使い方（15分）
・ロッカー引き出しなどの使い方（15分）	・運動着の着替え方・しまい方（15分）
学校の行き帰り…通学班・集合場所での待ち方・下校の仕方（15分×2）	
楽しい給食…身支度・手を洗う・静かに・歯磨きの仕方（15分×3）	
学校生活の約束…廊下・階段の歩き方（15分） トイレの使い方（15分） 体育館・遊具での遊び方（15分）	
学校をきれいに…掃除の仕方（15分×2）	
交通事故に気をつけよう…交通安全教室の事前事後指導（15分） 副読本での指導（15分）	
火事や地震が起きたら…避難訓練の事前事後指導（15分×2）	
不審者であったら…不審者対応訓練の事前事後指導（15分×2）	
学校周りの危険箇所、安全な生活について…（15分×2）	
図書室の使い方・本の借り方返し方…（15分×2）	

適応学習（仲間）30分×9回 「友だちとの良好な関係を築き、安心・安定した気持ちで生活を送ることができる」

好ましい人間関係をつくる活動	
朝と帰りのあいさつ・自己紹介	
ゲーム1（動物じゃんけん 例；ネズミ ニワトリ ネコ ワニ 勝つと1つ上がる 動物の身振り）	
ゲーム2（質問じゃんけん ペアで文戦 勝った人が質問して相手が答える）	
ゲーム3（フルーツバスケット 好きなもの 誕生日）	
年生と一緒に校歌を歌おう	
ゲーム4（王様じゃんけん 負けたら後ろに並び リーダー（王様）と文戦して負けたら座る）	
ゲーム5（空飛ぶじゅうたん（人口過密） 1枚の新聞紙に何人立てるかを競う）	
ゲーム6（名刺交換ゲーム）	
ゲーム7（グループじゃんけん 3～5人グループで文戦 脚でやる方法）	